**シャルル・デュトワ（指揮）**

**Charles Dutoit, Conductor**

今日最も人気のある指揮者の一人。1936年スイスのローザンヌに生まれ、現地やジュネーヴで学び、大指揮者アンセルメやミュンシュに師事、1964年にベルン響を指揮してデビューした。

以降、欧米の主要楽団を多く指揮し、特に25年にわたるモントリオール響との活動は特筆される。同団を「フランスのオケ以上にフランス的に」魅力的に育て上げ、世界ツアーやデッカ・レーベルのCDで一世を風靡、数多くの賞を獲得するとともに、世界中の音楽ファンはデュトワが創り上げた音色の魔術に熱狂した。

フランス国立管、フィラデルフィア管などのポストも歴任。1996年からはN響常任指揮者、98年から同団音楽監督を務め、2003年から名誉音楽監督。2018年にはサンクトペテルブルク・フィルの首席客演指揮者に就任。

シカゴ響、ボストン響、ニューヨーク・フィル、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、をはじめ、主要音楽都市のオーケストラに定期的に招かれ、共にフランス音楽を軽やかで明快なタッチで描き、ラヴェル、ドビュッシーといったフランス音楽の神髄を、深いレヴェルで聴衆に伝えている。また、独特のリズム感で指揮するストラヴィンスキーやメシアンなどの近・現代音楽や、バレエ音楽でも常に高い評価を得ている。

ほかにも北海道のPMFや宮崎国際音楽祭の芸術監督を務めるなど、日本のクラシック界へ大きく貢献。日本のみならず中国でも、誰よりも早くフランス国立管やＮ響とツアーをし、音楽祭に参加するなど、新しい領域へ飛び込む姿勢を持ち、世界中の聴衆に音楽の素晴らしさを伝えてきた。８０歳を迎えた2016年には、平和を祈り、ブリテンの「戦争レクイエム」を世界各地で指揮した。

各地での勲章や博士号の授与も多い。録音の数は200以上に上り、２度のグラミー賞をはじめ数々の栄誉に輝いている。　　　　　　　　　　　　　　（736文字）